

令和元年度 第2回北関東救急看護研究会

発表概要

テーマ： フライトナースの活動報告と今後の課題

話題提供者

所属： 獨協医科大学病院

氏名： 横地 瑞

栃木県ドクターヘリは2010年1月より運航を開始し、私はこれまでフライトナースとしてドクターヘリに搭乗し様々な対象に看護を実践してきた。フライトナースとして8年経過した今も、これでよかったのかと、自分の看護を振り返る日々である。

フライトナースが対象とする患者は、あらゆる年代の患者とその家族が対象となり、患者の状態は緊急度が高く重症である。フライトナースが活動する場は、ランデブーポイントの救急車内での診療以外にも、院外の様々な場所での活動が求められる。そのような場所で、限られた情報、物品、時間のなかで緊急性の高い状態かどうか、命の危機がどの程度逼迫しているか、フィジカルアセスメントを行い患者の状態を把握しながら、患者の生命危機の回避にむけ看護を実践しなければならない。今回は事例に沿って、その活動の実際を報告した。

またドクターヘリでの活動は、事故現場での活動や、多重傷病者への対応など、フライトナースが精神的なストレスを受ける場面がある。お互いの経験や思いを理解できるフライトナース間で、語らいが行える場は重要であるが、組織での惨事ストレス対応に対する取り組みが必要だと考える。

活動をまとめる中で考えられた今後の課題として、①フライトナースの育成、②精神的ケアも含め、組織として活動支援システムの構築が必要と考えた。

発表後、参加者が救急看護を実践しているなかで、惨事ストレスなど救急の現場で受ける精神的ストレスをどのように解消しているか、また施設としてどのように取り組んでいるのかディスカッションが持たれた。スタッフ間で体験や、思いを表出しあうことでストレスを解消している意見が多く聞かれ、カウンセリングルームが院内に開設されている施設もあった。

本内容は第69回日本救急医学会関東地方会学術集会に於いて発表したものである。